

## ～障害のある人々の生活を支える～義肢装具士

障害のある人々が生活するうえで手足の代わりとなる義手や義足。手足の機能障害を軽減、補助するための装具を作る義肢装具士は、東京パラリンピックを通して障害者アスリートを支える仕事としても注目されています。一人ひとりに適した装具をつくるには医学知識や製作技術に加えて患者へのコミュニケーションをとることが大切で、豊かな人間性が求められる仕事です。義肢装具士の藤本和希さん（株式会社 澤村義肢製作所）に聞きました。

### ■ 痛み装具士の仕事とは

義肢装具とは、事故や病気などにより手足の一部を失った場合に、もとの手足の形や機能を補うために装着・使用する人工的な手足のことです。装具とは、事故や病気などにより手足や体幹等の麻痺や変形が起きたり、機能が一部失われたりした場合に、それらを補うために使用する補助器具のことです。治療のために使用する治療用と、治療後に症状が固定し日常生活を送るために使用する更生用のものがあります。

この仕事は、医師・医療スタッフの求める治療・リハビリテーションが円滑に進み、患者さまの生活・やりたいことをお手伝いする仕事です。義肢装具士の仕事に就いて8年余になります。

### ■ 日々チャレンジすること

ひとり一人の喜びに直接触れられるのがうれしいですね。義足は、生活中でつけていることを忘れているようなものが理想です。義足がうまく身体に合っていないと、痛みなどから物事に集中できません。適合した義足であれば、良い病院でリハビリテーションすることで歩くこと



■ 痛み装具士に求められること  
人間相手の仕事ですから、コミュニケーション能力はなにをおいても大切なことです。義足にとって大事な「履き心地」は、人

伝いする仕事です。病院や会社等で一人ひとりにあつたより良い義肢装具を作製し、日々チャレンジできる仕事といえます。

### ■ 製作の方法は



藤本和希さん（株式会社澤村義肢製作所＝神戸市）

私の職場（澤村義肢製作所）では、解剖学や運動学などの知識が頭に入っている義肢装具士が主となつて実際に製作します。全ての工程を一貫してひとりの義肢装具士が行っている場合もあり、最適なものをお渡しできるよう取り組んでいます。

### ■ サッカーで膝を損傷したことから。

私は中、高校とサッカーをしてきたのですが、高校生のときに膝の靭帯を損傷

も走ることも可能となり、当人にとっての大きな自信につながります。

患者さまにとっての100点を目指すところから始まり、100点をもらえても、次回には更に要求が高まります。何度もチャレンジを繰り返せる部分にやりがいを感じます。そんな喜びや感激を仲間と共にしながら、日々切磋琢磨しています。

### ■ I-T（情報技術）やA-I（人工知能）による進展も。

義肢製作業界にも最新技術がどんどん導入されています。将来的には、A-Iによって、最適な義肢装具の選定や、義肢装具の採型・適合といった部分をアシストできると見えています。実際、国内外の大手企業とタイアップした研究でデータを収集し、どうすれば最適な方法を選定できるかなど、継続して日々考えています。

東京パラリンピックに向けた選手たちが懸命に努力している姿を見て、大きな刺激を受けています。私たちもそれに参加できるのが誇りです。私自身、選手たちの義肢装具のメンテナンスブースでお手伝いすることになり、精一杯貢献していきたいですね。

■ 装具士になる  
◎別項



### ためには。

によって異なります。例えば、几帳面な性格の人はきつめが好きで、いつもぴたつとしていないと納得できなかつたり、他の方、緩めに作つて自分で調整して自由に履いたりするのが好きな人もいます。最もチャレンジを繰り返せる部分にやりがいを感じます。そんな喜びや感激を仲間と共にしながら、日々切磋琢磨していくまでもチャレンジを続けていきたい。

近年、海外被災地でのNGO活動、また障害を持つ人のスポーツやレクリエーションが活発になっています。これからは義肢装具士には、技術のほかにプラスなにかが求められます。それは語学（英語など）でもいいし、3D技術やデジタル機器に詳しいこと、美術・造形センスかもしません。大きなケガや病気で手足を失つた人にとって、義肢装具は大きな希望です。専門知識を備えた優秀な義肢装具士がますます求められるようになります。活躍の場もどんどん広がっています。

しました。スポーツを続けるには手術が必要と説明を受け、手術後に膝装具を装着し、そのとき初めて医師や理学療法士

